

施策評価シート（平成31年度の振り返り、総括）

作成日 令和2年 06月 26日

施策 No.	5	施策名	公共交通ネットワークの整備
主管課名	総合政策課	電話番号	0285-83-8058
関係課名	市民生活課、商工観光課、社会福祉課、いきいき高齢課、建設課、学校教育課		

施策の対象	1) 市民及び市内の公共交通機関の利用者 2) 公共交通事業者（鉄道・バス）								
対象指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	31年度見込
人口	人	80,929	80,698	80,590	79,422	79,542	79,414	79,324	80,200
事業者数	社	3	3	3	3	3	2	2	2

施策の意図	<p>1) 市民及び市内の公共交通機関利用者のニーズに対応し、便利で安心・迅速な移動ができるようにする。</p> <p>2) 公共交通事業者の安定した経営を支援する。</p>								
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意向調査の「公共交通の利用しやすさ」を使用する。 ・いちごタクシーとコットベリー号（平成31年3月4日からは、いちごバス）の1日当たりの利用者数は、1年間の利用者総数を営業日数で除して算出する。 ・真岡鐵道利用者数は、真岡鐵道決算資料により把握する。（SL乗車数は除く。） ・真岡駅の乗降者数は、乗る人と降りる人の1日あたりの合計人数に365日をかけて算出する。1日あたりの人数は、真岡鐵道の資料により把握する。 ・バスの利用者数は、10月1日から翌年の9月30日までの、市内6路線の1年間の利用者で、バス会社の資料により把握する。 								
----------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

成果指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	31年度基本計画目標値
公共交通の利用しやすさ	%	20.8	33.8	32.7	33.2	32.9	34.6	35.0	35.0
いちごタクシー1日当たりの利用者数	人	82.8	75.5	73.9	73.2	73.7	67.3	66.8	83
コットベリー号(いちごバス)1日当たりの利用者数	人	41.6	49.9	54.8	58.3	62.4	63.9	107.5	60
真岡鐵道利用者数	人	1,028,861	992,614	991,669	962,574	946,528	936,958	903,496	
真岡駅の乗降者数	人	379,600	326,675	368,285	343,465	342,370	338,720	288,715	
バスの利用者数	人	564,135	521,705	526,870	521,236	595,707	547,513	614,432	

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<p>市民は公共交通の役割を理解し、積極的に利用する。</p> <p>行政は市民や利用者のニーズを的確に把握し、地球環境問題や急速に進行する高齢社会に対応した総合的な公共交通ネットワークの整備に努める。</p>								
-------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（1）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

いちごタクシー1日当たりの利用者数は、平成29年度は73.7人、平成30年度は67.3人、令和元年度は66.8人で、年々減少している。

コットベリー号（平成31年3月4日からはいちごバス）1日当たりの利用者数は、平成29年度は62.4人、平成30年度は63.9人、令和元年度は107.5人で、コットベリー号からいちごバスに変わり、便数、乗車定員が増えたことにより、大幅な伸びを見せた。

真岡鐵道の利用者数は、平成29年度は946,528人、平成30年度は936,958人、令和元年度は903,496人で、通学定期利用者の減少等により、年々減少している。

真岡駅の乗降者数は、平成29年度は342,370人、平成30年度は338,720人、令和元年度は288,715人で、年々減少している。

バスの利用者数は、平成29年度は595,707人、平成30年度は547,513人、令和元年度は614,432人で、年によってばらつきが見られる。

（2）近隣他市との比較（地域公共交通の取組状況、県内14市、令和元.3.31現在）

・コミュニティバス：12市（未実施：下野、さくら）

・デマンド型交通：11市（未実施：足利、矢板、那須塩原）

（3）住民期待水準との比較

市民意向調査では、公共交通（バス・鉄道・いちごタクシー・いちごバス）の利用しやすさが良い、どちらかと言えば良いと回答した割合は、前年より0.4%増の35.0%となった。

また、今後力を入れて欲しい施策として、「公共交通ネットワークの整備」は24.9%（前年27.3%）で、全体で上から4番目（3年連続）となっており、期待水準は高い。

31年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・平成23年11月から運行を開始したいちごタクシーは、令和元年度の1日当たりの利用者数は目標83人に対し、66.8人だった。（令和元年度末登録者数：9,759人）
・いちごタクシーについては、利用促進と利便性の向上を図るため、平成29年2月から回数券を発行した。

・平成24年10月から運行を開始した中心市街地を循環するコミュニティバス「コットベリー号」は、右回り、左回りコースを1日各8便運行していたが、平成31年3月4日の新芳賀赤十字病院の開院にあわせて、運行コースの見直し、26人の小型バスの導入をし、いちごバスとして、運行を開始した。

・いちごバスについては、利用促進と利便性の向上を図るため、令和2年1月から回数券を発行した。また、小学生の利用促進のため、令和元年8月1日から9月1日まで、「夏休み！わくわく無料乗車キャンペーン」を実施した。

・真岡鐵道については、安全・安心輸送の確立と利用者の快適性及び利便性の向上を図るため、第三期真岡鐵道経営計画（令和元年度から3年度までの3年間）に基づき、栃木・茨城両県及び沿線市町とともに支援しており、令和元年度は、木まくら木1,554本の更新と軌道道床整備、車両の全般検査などを実施した。

・真岡線S L運行協議会においては、沿線市町の観光協会、JR東日本、旅行会社等と連携し、イベント列車の運行や各種事業を実施した。

・バスについては6路線中2つの赤字路線に対して、国・県・関係自治体とともに助成し路線の存続を図った。令和元年度補助金額：1,236千円

赤字路線名：真岡～芳賀日赤・石法寺～宇都宮線 真岡～ベルモール・石法寺～宇都宮線

・高齢者の交通事故防止と公共交通の利用促進を図るため、65歳以上の運転免許証自主返納者に対し、平成28年度からいちごタクシーとコットベリー号の共通無料乗車券（1年間）の交付を開始した。また、平成29年度から、免許返納の高齢者（福祉タクシー利用券の交付を受けていない方）に、月2枚のタクシー利用券の交付を開始した。さらに、令和元年度から、いちごタクシーといちごバス交通無料乗車券の使用期限を無期限に拡充した。

31年度の
評価結果

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

・いちごタクシーについては、予約が一定の時間に集中して取りづらいなどの理由により、利用者数が減少し続けており、その原因究明と対策を検討するとともに、引き続き、回数券の発行により利用促進と利便性の向上を図る。

・いちごバスについては、引き続き、回数券を発行するとともに、定期券の導入を図る。また、地域公共交通網形成計画の見直し（新たな地域公共交通計画の策定）にあわせて、市街地以外の地域への運行ルートについても検討する。

・引き続き、65歳以上の運転免許証自主返納者に対し、いちごタクシーといちごバスの無期限の共通無料乗車券を交付する。

・真岡鐵道、民間路線バス、いちごタクシー、いちごバスの乗継等の連携を強化する。

・真岡鐵道利用者の増加、交流人口の増加、地域の活性化を図るため、「S L の走るまち拠点施設」との連携を推進する。

・真岡鐵道については、利便性の向上と利用促進を図る。

・バス路線については、生活路線として維持確保し、地域住民の利便を確保する。

・自転車ネットワーク計画による自転車利用環境の整備を図る。

【増補版に関連する事項】

・広域連携による移動手段・公共交通ネットワークの確保

宇都宮駅東口と芳賀・高根沢工業団地を結ぶL R T（次世代型路面電車システム）の導入を見据え、広域連携による移動手段の確保と市内公共交通の充実について、調査・研究する。

31年度の
評価結果

補足事項